

瑞浪市道の駅計画に関わる人々のつながりの変遷

岐阜大学大学院 学生会員 ○佐橋楓雅
岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. はじめに

近年、日本全国で少子高齢化や過疎化の解消、地域経済や地域住民の活動の活発化を目指した地域活性化に向けた取組みが展開されている。本研究が対象とする岐阜県瑞浪市でも、地域活性化を目的とした道の駅の建設計画が進められており、これが様々な地域課題を解決することが期待されている。

この道の駅建設に向けたプロセスの中で、地元住民らは地域コミュニティ内外の個人と新たに関係を築き、豊かな人的つながりを形成することで、地域内外の人的資源を活かした様々な取組みを展開し始めている。こうした地域コミュニティの中では、コミュニティに新たな個人が加わり取組みが展開されていく正の動きと、取組みを実施する組織の改編などによってコミュニティ内の取組みが停滞あるいは消沈していく負の動きがあるように思われる。

本研究では、地域コミュニティ内における活動が活発化していく動きと停滞・衰退していく動きの両方の動きがみられる2020年度以降の瑞浪市道の駅計画に関わる人々の取組みに着目し、その人的つながりの変遷を分析することを試み、それによって瑞浪市釜戸町におけるまちづくりの特異性を明らかにすることを目的とする。

2. 瑞浪市道の駅計画

本章で説明する瑞浪市道の駅計画における各種関係組織の主な取組みを表-1に示す。

2018年4月、名古屋市を起点とし、岐阜県東濃地方を経て長野市に至る国道19号の渋滞・事故等の解消やリニア中央新幹線開業時に期待される地域振興に寄与するために、岐阜県瑞浪市と恵那市を結ぶ区間に大部分が高架のバイパス道路(瑞浪恵那道路)の建設が計画された。この計画決定を受け、瑞浪市は市内で唯一バイパス道路と現況の道路(恵那御嵩道路)が平面交差する釜戸町に道の駅を計画することを発案・計画する。同年6月から地元の各種関係組織の代表や学術経験者、公募委員などにより構成された「瑞浪市道の駅検討委員会」が開催され、全5回の議論を経たのち、翌年8月に瑞浪市は「瑞浪市道の駅基本構想」を公表した。現在、瑞浪市道の駅検討委員会では、「瑞浪市道の駅基本計画」策定に向けた議

表-1 瑞浪市道の駅計画における主な取組み

	瑞浪市道の駅検討委員会	釜戸区長会 まちづくり推進協議会	地域の有志	瑞浪市役所	岐阜大学
2018年度	基本構想づくり				基本構想づくり
2019年度			プロジェクトチーム案	道の駅基本構想	
2020年度			区長会の特別委員会発足		
	基本計画づくり		特別委員会の名称が「かまどベース」に		基本計画づくり
2021年度				空き家ツアー	
				カマドボックスDIY	
			「かまど道の駅検討会」設立 「かまど道の駅検討会WG」		
2022年度				実証実験「かまDO!」	
				岐阜大学2021年度事業報告会	
				カマドボックスの運営 「かまど企画」誕生	
				瑞浪市道の駅戦略づくりWS	

論が進められている。

2019年度の「瑞浪市道の駅基本構想」の公表を受け、地元住民自らが動かなければいけないという意識が一部の住民の間で芽生えはじめた。2020年度になると、これらの個人によって、道の駅を活用した地域活性化を図るために活動する組織(かまどベース)が結成され、同年6月には釜戸町区長会の傘下組織として位置付けられた。結成当初は活発な活動がみられたものの、活動が拡大化し始めると上位組織である区長会などが活動の全容を把握できなくなるとの懸念から衰退への動きへと変わった。

2021年度になると岐阜大学出村研究室が瑞浪市から研究を受託し、研究の中で3つの実践(空き家リノベーションにより地域拠点をつくる「カマドボックスDIY」、地元のキーパーソンに対してヒアリングをする「ひとりひとりトーク」、道の駅建設予定地に実現可能なアクティビティの風景をつくる「実証実験」)を実施した。岐阜大学主催の取組みを機に、関係を築き、その関係を基に後の取組みにも参加する個人の存在が確認できた。

2022年6月、岐阜大学は、住民向けに昨年度実施した取組みの報告会を実施した。報告会后、主体的な住民によって、釜戸町周辺において自由な活動を展開する「かまど企画」が立ち上がった。また、岐阜大学は同年10月から今後の事業化へ向けた戦略会議を実施している。

3. 研究手法

本研究は、ヒアリング調査とアンケート調査による2020年度から2022年度におけるまちの活動の動向を把握することと、グラフ理論を用いて瑞浪市道

の駅計画に関わる個人の人的つながりの構造の変化を定量的に分析することを実施し、両者の関係の中から現象を読み解く手法をとる。

(1) ヒアリング調査とアンケート調査

まず、瑞浪市の地域コミュニティ内の人的つながりを把握するために、地域内で主体的に活動する個人に対してヒアリング調査を実施した。調査では、いつ、どのような取組みを行ったか、取組みを実施した組織のメンバーを挙げてもらった。表-2 に示す個人に対してヒアリングした結果を以下に説明するような Affiliation-Network として可視化し、凡そのネットワーク構造を把握した。

次に、瑞浪市道の駅計画に関わる個人の人的つながりをより詳細に把握するため、調査対象者数を大幅に増加させるアンケート調査を実施する。アンケート調査では、道の駅計画に関わる個人がいつ、どのような取組みを実施し、取組みを実施した組織のメンバーは誰かについて問う質問に加え、その組織への参加が、既存の人的つながりによるものなのか、広報等を見て参加した突発的なものなのかを把握するために、組織に参加したきっかけを問う質問を設けた。ヒアリング調査とアンケート調査から得られた情報は時系列順に整理したのち、人的つながりの変化に着目し、フェーズ分類を行う。

(2) Affiliation-Network による可視化

地域コミュニティの取組みには、2020 年度にかまどベースが結成された際のように、個人同士のつながりを基にした動きと、後にかまどベースの活動が停滞する際のように、組織構造の変化に伴う動きがある。こうした、個人的つながりによる影響と組織的つながりによる影響を同時に捉えるために、個人および組織の二つの要素からなる Affiliation-Network を用いて、人的つながりの変遷を可視化する。

(3) ネットワーク分析

本研究では、次数中心性と媒介中心性という2つの中心性指標を用いて、人的つながりの構造の変化を定量的に分析する。次数中心性は、各ノードが持つリンクの数(次数)を示す指標であり、式(3.1)のように定式化され、多くの組織に所属する個人ほど次数中心性の値は大きくなる。

$$dgc(i) = deg(i) \quad (3.1)$$

$dgc(i)$: ノード i の次数中心性,

$deg(i)$: ノード i の次数

媒介中心性は、あるノードが異なる2つのノードの

表-2 ヒアリング対象者と主な調査内容

調査日	対象者	主な調査内容
2021/8/6	SUE	SUEの取組み
2022/6/1	KZN	KZNの取組み
		かまどベースの取組み
		釜戸フォーク村の取組み
2022/11/11	KDO	かまど企画の取組み
2022/6/1		KDOの取組み
		かまどベースの取組み
2022/7/3	AZM	AZMの取組み
2022/9/15	TNH	TNHの取組み
2022/10/31	DEM	DEMの取組み

間の最短経路上に存在する割合を示す指標であり、式(3.2)のように定式化され、コミュニティ間の結合を担う役割が大きい個人ほど、媒介中心性の値は大きくなる。

$$bwc(k) = \sum_{s,t} \frac{\sigma_{s,t}(k)}{\sigma_{s,t}} \quad (3.2)$$

$bwc(k)$: ノード k の媒介中心性

$\sigma_{s,t}$: 任意のノード対 s, t における最短経路数

$\sigma_{s,t}(k)$: $\sigma_{s,t}$ のうちノード k を通る最短経路数

一般的に、次数中心性と媒介中心性の間には相関関係が存在する。本研究では、この一般化傾向を単回帰分析により算出した一次曲線(切片は0とする)で表現する。また、次数中心性に対する媒介中心性の一般化傾向の値の大きさと各個人が示す媒介中心性の偏差の大きさをリッチポテンシャル(以下、RPとする)と定義し、高いRPを示す個人の移り変わりとそれに伴うネットワーク構造の変化を分析する。

4. おわりに

本研究は、岐阜県瑞浪市道の駅計画に関わる人々のつながりの変遷から、地域コミュニティ内の活動を活発化させる動きと衰退化させる動きの両現象を客観的に捉えることを目指す。そのために、瑞浪市の地域コミュニティ内で主体的に取組みを展開する個人に対してヒアリング調査を実施し、2020年度以降に行われた取組みとその実施組織及びメンバーを把握した。ヒアリング調査結果から、地域コミュニティ内の人的つながりの把握には、より多くの個人を対象とした調査が必要であることが分かったため、追加でアンケート調査を実施することにした。

アンケート調査を実施し、コミュニティ内の人的つながりの詳細を把握した後に、中心性指標を用いたネットワーク分析を実施することで、当事者が自主性をもって道の駅づくりに参加することができるしくみの構築に対する示唆が得られることを期待している。